



デザイン：石ノ森 章太郎
生涯学習のマスコット“マナビィ”

NO.264

オリンピックの開会式のクライマックスは聖火の入場と点火であろう。1964年の東京オリンピックでは晴れわたった青空の下、炎と白煙が清々しいランニングスタイルの最終走者によってスタンドの階段を上がってゆき、聖火台に点火されたシーンが思い出される。1992年のバルセロナオリンピックではアーチェリーの選手によって矢につけられた聖火が滅灯されたスタンドの夜の空中を飛んで点火されるという演出であった。そのアーチェリーと私との出会いは25歳の時。高校時代からお世話になっていた柳井市のスポーツ店の社長さんからの誘いをいただいてから競技を始めた。しかし30歳で病気のため競技を断念。国内審判員としてアーチェリーというスポーツに奉仕するというつながりを勧められ、アー

チェリーとの新たな歴史が始まった。そのつながりの中で新しい展開が起こり、1994年の広島アジア大会を機に国際審判員という役割が与



▲シドニー五輪参加賞のメダル

えられ、2012年のアーチェリーワールドカップファイナルイン東京で引退するまで多くの体験、出会いを経験することとなった。その間の奉仕の中で多くの思い出があるが、世界中の国際審判員があこがれるオリンピックへの奉仕、そして世界選手権大会での審判長。この2つを体験できたことは苦労と疲れを払拭してくれる力となった。多くの自己犠牲を払うスポーツボランティアの審判員の仕事には多くの楽しみもある。自分の関わるスポーツの世界の超一流の選手達の磨き上げた技術による競技を目の前で見れること、彼らの表情、感情、ことばが飛び散ってくる距離で観察でき、世界新記録達成や、金メダル戦の現場にも立

今年の6月10日に、公益財団法人山口県体育協会体育功労賞を受賞された部屋範夫さんに、アーチェリーの国際審判員になられた経緯や、貴重な経験から感じられたことを、思いのままに語って頂きました。

黄金大地 ～つながりの中で～



砂田自治会 ^{へや} ^{のりお}
部屋 範夫

ち会えるのである。そんな思い出の中で忘れられない場面は、アトランタパラリンピックでマッチに勝った日本人の選手が、悔しさと泣き出したイギリス人の車イスの少女にいつまでも寄り添いスポーツ選手としての哀楽を分かち合っていた美しい光景である。目の前の心温まるシーンにスポーツの原点を見た思いであった。人、文化、仕事を研究し、与えられた知識や経験は今、智慧となって自分に残っており、その喜びが私のひそかな勲章である。そこで光る、そこを光らすという黄金大地が日常の人のつながりの中から私に与えられたことに心から感謝したい。2020年の東京オリンピックへは、前回の東京オリンピックの地方聖火ランナーとして一緒に走った中学校の恩師と観戦に行こうと約束をしている。

夢の大地がつづいてゆく。



▲第16回アジア選手権大会に参加した部屋さん(右端)

名刺の要らない世界

保護司

谷 一夫

定年退職して3年間の図書館勤務。これを終え、今は名刺を持たざる天下晴れての素浪人である。

名刺の不必要な1つ目の世界は同窓会である。60歳の半ば(緑寿)の集まりである。幼・小・中・高と同じ学舎の仲間もいて、正に「竹馬の友」である。名刺など要るはずもない。全て昔の「太郎ちゃん・花子ちゃん」の「ちゃん」付けて呼び合って、一向に違和感はない。呼び捨ても大いに結構。学校時代の勉強の出来不出来も既に遠い過去の背景へと沈み込んでいる。そこには、共に生き抜いた来し方への懐かしい郷愁が在るばかりである。

功成り名遂げた者も、袴を脱ぎ捨て、肩書きを外し一介の素浪人として近況を「対等に」語り合うこととなる。弾む話は、一病息災の持病や飲み薬、孫やペットの自慢、趣味の事柄などにおよび尽きるることが無い。

2つ目の世界は俳句の世界、殊に「句会」である。俳句を始めて「万緑(俳諧の結社)」に入会した。句会は、実に民主的なシステムである。

先ずは持ち寄った無記名の各自の句(短冊)をシャッフルして一覽表に清記する。次に選句。高得点句から披講(解釈の交流)が始まり最後にその句の作者が名前を明かすという流れである。

選句に当たっては、自分の句以外の句を選ぶこと(他者の存在への敬意)になっている。この間も無記名という匿名性が一貫して維持されるので、メンバーの肩書きや経歴・句歴などが入る余地は一切無い。ひたすら句そのものの魅力や価値が独り歩きする厳然たる実力の世界である。

句作りは孤独な作業であるが、句会は「座の文学」であり、主宰も初心者も全く同じ地平に立ち、俳号一つでお互いを親しく呼び合う豊かな縁が醸成されている。

「迷路ゆく

見らコスモスの

精となり」



第169回

サークルスケッチ

成人式実行委員会

委員長 岩谷美里



こんにちは。平成27年田布施町成人式実行委員会です。

1月の成人式に向けて、この夏から活動し始めました。

主な活動内容としては、当日の会場準備を始め、記念行事の企画、ポスターや冊子の作成などがあります。第1回目の集まりでは早速、当日の記念行事のことやポスターの作成などについて話し合いました。久しぶりに顔を合わせるといふことで、懐かしい気持ちになりながら楽しく話し合いを進めています。

少し真面目な話になります。20歳という節目の年を迎えるにあたって、やはり『責任』という重圧が今までもよりも大きくなります。今回の成人式では、支えてもらってきた人や環境に感謝の気持ちを持つこと。そして、私たちの成長した立派な姿が見せられるように、実行委員

一丸となって新成人をひっぱっていきたいと思います。思い出に残る、華やかな成人式を作るためにこれから頑張っていくと思います。

現在、実行委員会は7人で活



動しているのですが、もったくさんの人のたくさんの方の意見で、より良い成人式を作っていけたらいいなと思っています。懐かしい思い出話しながら、一緒に素晴らしい成人式をつくりましょう。ご連絡をお待ちしています。

■実行委員会開催日

毎月1回 午後7時〜

■場所 中央公民館

■問合せ先 社会教育課

☎52-5813

成人式

◎平成27年1月4日(日)

午後1時〜

◎西田布施公民館